

ウクライナ侵攻による避難民・難民の支援について

令和4年3月1日

LCIF 理事 鈴木誓男

2022年2月25日に開始したウクライナ侵攻による戦闘により、多くの市民が避難を余儀なくされています。この状況へのLCIFの対応は以下の通りです。

- LCIFはこの事態を「難民及び暮らす場所を奪われた避難民への支援」と位置づけ、寄付を募ることを決定いたしました。LCIFは限られた資金を活用するための方針として、自然災害による被災者の支援を原則とし、いわゆる人災は支援対象外としております。
しかしながら、過去には9.11ニューヨーク同時多発テロの被災者支援、シリア難民への支援、レバノン大爆発の支援等、自然災害ではないが被害が世界的視野で見て甚大であり、何より多くのライオンズ会員から支援したいという意思が示された場合、寄付を呼びかけ、支援を行ってきました。今回のウクライナ国民への支援は同様のものと位置付けられます。
- すでに、近隣のルーマニア、ポーランド等のライオンズから、難民支援に対する今後の交付金の可能性について問い合わせがきています。現在、LCIFスタッフはこれら近隣諸国のリーダーと連絡を取り合い、近隣国に流入するウクライナからの難民の緊急のニーズを満たす支援プランを検討中です。今のところ、食糧、水、衛生用品、毛布などをまとめたキットを配布するため、15,000ドルを早急に近隣国の地区へ交付すべく、準備をしています。

- ウクライナのライオンズは、自由と民主的奉仕活動を力強く信奉し、東ヨーロッパの中では最も LCIF 支援にも積極的で、キャンペーン 100 のエリアリーダーもウクライナの PDG が務め、しっかりと取り組んできた地域です。現在はガバナー自身もキエフを離れ、西ウクライナへの避難を余儀なくされていますが、将来的には、近隣ヨーロッパ諸国の支援の下、国内で住居を失った市民の支援などに取り組む力があると考えています。
- ライオンズの精神に則り、LCIF は政治的な関与ではなく、あくまでこの状況下で難民・避難民となった市民の支援を行います。戦闘は近く終結するかもしれませんが、破壊された地域が安全を取り戻し、市民が日常を取り戻すにはまだ多くの支援が必要です。
- LCIF はすでにオンライン寄付受付窓口、ソーシャルメディアでの寄付募集を開始しました。今後、広く寄付の呼びかけを進めていく予定だと聞いております。

日本からの協力をお願い

以上の LCIF の対応を踏まえまして、日本のライオンズ会員の皆様に対しては、**一人 1000 円を目安に**寄付を呼びかけたいと考えます。

国際理事、協議会議長、地区ガバナーの皆様のご賛同と寄付の呼びかけへのご協力を何卒宜しくお願い致します。

- 寄付は災害復興支援の場合と同様、100%ウクライナ支援のために使われるので、この寄付はシェアリング交付金の対象にはなりません。

- 可能であれば、地区単位での寄付取りまとめをお願いしたいと思いますが、クラブ単位、個人単位も受け付けます。寄付の書式、案内は、OSEAL 調整事務局 LCIF 日本担当より近日中に発信されます。

